

# 令和元年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	05	高津区放置自転車対策事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			676100		高津区役所道路公園センター 管理課		山本 行範	74500	

事業の概要									
事業の概要		自転車等放置禁止区域における放置自転車等の計画的な撤去作業と放置自転車等に関する啓発活動を継続して行う。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
		平成22年度	—						
地域の課題と現状		高津区内主要鉄道駅周辺は大型店舗が密集し、交通の利便性が良いことから自転車の利用が多いため、昼夜を問わず自転車が放置されている。自転車は車両であるとの意識が低く放置は危険であるとの認識がないことが大きな課題である。現在、定期的な撤去作業を行っているが放置自転車等に対して、撤去が追い付かないのが現状である。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		688	618	688	380		
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特材 一般財源	688	618	688	380				

計画 (Plan)	
事業の目的	高津区内における主要鉄道駅の、自転車等放置禁止区域内の自転車放置を防止し、安心・安全で住みやすいまちづくりを推進する。
今年度の事業の取組内容	高津区内における主要鉄道駅の自転車等放置禁止区域内の放置自転車等を減少し、安心・安全で住みやすいまちづくりを推進するため、自転車等放置禁止区域内の放置自転車等の撤去を計画的に実施するとともに、駐輪場施設への誘導と放置・駐輪に係る啓発を行う。 また、放置自転車等防止に向けた、キャンペーン等による啓発を行う。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	高津区内における主要鉄道駅の、自転車等放置禁止区域内の放置自転車等を減少し、安心・安全で住みやすいまちづくりを推進するため、自転車等放置禁止区域内の放置自転車等の撤去を計画的に実施しました。併せて、駐輪場施設への誘導と放置・駐輪に係る啓発を行った結果、若干の放置自転車等の減少があった。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1	活動指標	啓発活動の一環として、啓発用品を鉄道駅にて提示	目標	12	12			枚
				実績	14	20			
	2	活動指標	啓発活動の一環として、路上施設にポスター掲示	目標	12	3			枚
				実績	1	8			
3	活動指標	放置自転車クリーンキャンペーン	目標	1	1			回	
			実績	1	1				
4	活動指標	今年度放置自転車撤去台数	目標	4,000	3,800			台	
			実績	3,800	2,800				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	自転車は誰でも簡単に乗れる大変便利な乗り物であるため、交通規則を守らなければならない意識が薄く、歩道や路肩に安易に駐輪する、駐輪してもよいとする考えが根底にあり続け、撤去や啓発を行っても利便性を追求するばかりで、依然として交通安全に関する意識が低いままである。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 31年度 <input type="checkbox"/> 今後実施( 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	大型店舗付近は、放置自転車等が多く啓発活動の効果が薄いので、大型店舗周辺における駐輪場拡大について協議したり、付近駐輪場の案内を行ったことで若干の放置車が減少する等の効果があった。今後も継続予定である。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	利便性を追求するので、「少しなら」の意識が強いままであるため、事業に対するニーズはまだまだ薄れていない。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	事業の見直し・改善を行い作業効率化を図った結果、平日午前中の放置車が減少している等、成果が上がっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	常に駐輪されないような方法を考案する必要があるが、予算・人的措置等が必要であり、抜本的対策案の構築・実行は困難なことから、地道に現行体制を継続する。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 事業の改善・見直しを継続し、大型店舗周辺における駐輪場拡大について協議したり付近駐輪場の案内を行ったことで若干の放置車が減少する等、有効な成果を上げられた。今後は、限られた予算と人的措置で対応するので現状を維持しながら、地道に啓発と撤去作業を行う。	

# 令和元年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	10	高津安全・安心まちづくり支援事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		小川・小竹	64353	

事業の概要										
事業の概要		地域住民による自主防犯活動を支援し活動の活性化を図るとともに、防犯キャンペーン等の啓発活動を通して区民の防犯意識の向上を図ることにより、地域の安全・安心の確保につなげる。								
実施期間		事業開始年度 平成17年度		事業終了年度 —		予算中事業		安全・安心まちづくり事業		
地域の課題と現状		区内の刑法犯認知件数は平成29年の1065件から平成30年に957件へと減少傾向にあるが、地域の安全・安心を確保するためには、地域住民による「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識付けが重要である。そのため、地域団体や警察と連携の上、地域住民による自主防犯活動の支援や防犯キャンペーン等の啓発活動の実施を通して、安全安心に暮らせるまちづくりの実現を目指す。								
予決算 (単位:千円)	年度	財源内訳	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費		722	589	717	647				
	国庫支出金									
	市債									
	その他特財									
	一般財源		722	589	717	647				

計画 (Plan)	
事業の目的	自主防犯活動の支援や防犯キャンペーン等の実施により、地域の安全・安心の確保につなげていく。
今年度の事業の取組内容	警察と連携し、毎月1回程度の防犯キャンペーンを実施する。特に人通りの多い商店街や規模が大きめの店頭前でチラシ配りや声掛けを行い啓発する。 高津防犯パトロール隊活動報告会で2~3団体の活動内容の発表を行い、パトロールの重要性を確認する。また宮前区との合同パトロールでは、出発式のあと5ルートに別れそれぞれの地域に向け広範囲にパトロールを行う。 高津防犯パトロール隊等の自主防犯活動団体に対し、パトロール用品の貸与等の活動支援及び情報共有の推進を図る。防犯アプリ「みんバト」の周知を図るとともに、オレオレ詐欺等の犯罪防止に向けた広報を積極的に実施する。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり							
取組内容の実績等	防犯キャンペーンは令和元年6月、7月、10月(3回)、11月、12月、令和2年1月、2月(2回)に警察署等の関係団体と連携して実施した。(毎月10日実施が原則だが、警察署の都合や雨天は実施されないことがある。) 防犯パトロール隊活動報告会は令和元年11月に約80名の参加者を集め開催し、2団体の活動内容を発表した。 令和2年2月に宮前区との合同防犯パトロールを地域住民や高津防犯協会、警察署と連携して、約130名の参加者を集め、実施した。 防犯パトロール隊への貸与は、ベスト、帽子、のぼり旗等約100品行った。 防犯アプリ「みんバト」の普及、オレオレ詐欺等の犯罪防止に向け、防犯キャンペーン等でチラシの配布を行い、積極的に広報した。 防犯に対する意識向上のため、新入学児童とその保護者に啓発物の配布を実施した。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標	防犯キャンペーンの開催数	目標	12	12			
				実績	9	10			
	2	活動指標	防犯パトロール隊活動報告会	目標	1	1			
実績				1	1				
3	活動指標	宮前区との合同パトロール	目標	1	1				
			実績	1	1				
4	活動指標		目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	区内犯罪認知件数は減少傾向にあるが、犯罪は必ずどこかで起こっている。特に、詐欺行為は様々な新たな手口で実行されており、今後は高齢者のみならず若年層を含めた区民ひとりひとりが、防犯に対する意識を高めることが求められている。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 30 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和2年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	振り込み詐欺に対する注意喚起の呼びかけや、2年前から導入した防犯アプリ「みんバト」の広報を手法等を工夫して実施する。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	高津区の過去5年の犯罪認知件数の推移(平成27:1338人~令和元年:1059人)から、犯罪は減少傾向にあることが分かるが、犯罪行為は新たな手口で実行され、被害者が後を立たない状況であるため、ニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	高津区の過去5年の犯罪認知件数の推移から犯罪は減少傾向にあることが分かり、犯罪させない、しにくいまちづくりのため、区民の防犯に対する意識向上を目的とした啓発活動は一定の成果があり、有効であると考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現状、警察等の関係機関との連携、役割分担はできており、結果として一定の成果が出ていることから現状、見直しの可能性はない。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 ・毎月1回程度の防犯キャンペーンを継続して警察署と連携し、実施していく。 ・犯罪情報を速やかに伝達できるよう、防犯アプリ「みんバト」の普及を図る。 ・犯罪させない、しにくいまちづくりのため、幅広い世代に向けた広報活動を実施し、防犯意識を広めていく。

# 令和元年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	15	交通安全の普及啓発事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		小川・小竹	64353	

事業の概要											
<b>事業の概要</b>		高津区民、地域団体、行政、警察署等が連携し、交通安全キャンペーンや交通安全教室等の啓発活動を通じて、交通安全への意識の向上を図り、交通事故防止につなげる。									
<b>実施期間</b>		事業開始年度 平成22年度		事業終了年度 —		予算中事業		安全・安心まちづくり事業費			
<b>地域の課題と現状</b>		高津区内の交通事故件数は減少傾向にあるものの、二輪車事故や高齢者関連事故、最近では増加傾向にある自転車事故を中心に、依然として多くの交通事故が発生している。そのため、地域団体、交通関連事業者、行政、警察署等が連携し、継続かつ効率的に啓発活動に取り組むことにより、高津区民の交通安全への意識の向上を図る必要がある。									
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		事業費		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		国庫支出金									
		市債									
その他特財											
一般財源		1,548	759	1,427	875						

計画 (Plan)	
<b>事業の目的</b>	区民の交通安全意識の向上を図り、交通事故防止につなげていく。
<b>今年度の事業の取組内容</b>	毎月1回程度「まちかど交通安全アピール活動」を実施する他、年4回の交通安全運動期間に「交通安全キャンペーン」を実施し、歩行者や通行車両に交通安全を訴え、交通事故防止を広く呼び掛ける。 高津区内の各小学校の入学式において、各交通団体と連携して出席する親子に啓発を行い、交通安全の意識を高める。 高津区内の中学校等において、スクエアドストレイト方式の交通安全教室等を行い、特に自転車の交通安全意識を高める。 警察署と連携し、小学校、保育園、町内会等で交通安全教室を実施し、歩行や自転車の交通ルール遵守と交通マナーの向上を図る。また、30代、40代の保護者向けに、自転車を中心とした交通安全の啓発を行う。 警察署と連携して、企業等で働く方(特に通勤で自転車を利用している方)への交通安全講話を行う。

実施結果 (Do)									
<b>上記取組内容に対する達成度</b>	3	1. 目標を大きく上回って達成      4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成          5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり							
<b>取組内容の実績等</b>	月1回「まちかど交通安全アピール活動」を行い、歩行者に啓発品を配布しながら交通安全を訴えた。また、年4回の交通安全運動期間に武蔵溝ノ口駅南北自由通路等において交通安全キャンペーンを実施した。 新入学児童への啓発活動として、高津区交通安全対策協議会の構成団体との協力・連携のもと入学式に出席する親子に啓発物・チラシを配布し、交通安全について呼びかけを行った。 区の敬老会の集まりで高齢者への交通安全の呼びかけを行い、啓発活動を行った。また、高齢者を対象に市バスを利用した交通安全教室を実施した。 スクエアドストレイトの交通安全教室については、新型コロナウイルス感染拡大防止等のため中止になったイベントもあったが、高津区内の高等学校及び中学校各1校で実施し、自転車を中心とした交通安全意識向上に努めた。 PTAと連携した自転車交通安全講習会では、児童とその保護者に自転車交通のルールとマナーについて学習した。約60名参加した。 警察署と連携し、企業や町内会・自治会で交通安全教室を開催し、自転車の交通ルールとマナーについて啓発した。								
<b>数値で把握することが可能な取組</b>	指標分類	指 標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標	交通安全教室開催数(幼稚園・保育園)	目標	31	35			回
			実績	35	34				
	2	活動指標	交通安全教室開催数(小学校)	目標	31	31			回
			実績	31	31				
3	活動指標	交通安全教室開催数(中学校・高等学校)	目標	3	3			回	
		実績	0	2					
4	活動指標	交通安全教室開催数(企業・その他)	目標	10	10			回	
		実績	7	5					

評価 (Check)			
<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b>	高津区は近年交通事故の発生件数は減少傾向にあるものの、直近10年の内9回、神奈川県から「自転車交通事故多発地域」に指定されている。		
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input type="checkbox"/> 実施 (直近)      年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(令和2年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		
	管内自転車事故多発地域を中心に広報活動を実施する。イベント等の実施内容を工夫し、自転車の交通ルールの周知徹底を図る。		
評価項目		評価	
<b>必要性</b>	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	交通事故全体の件数は減少傾向にあるが、事故は必ず起きておりニーズは薄れていないと考えられる。	
<b>有効性</b>	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	区内人身事故は平成30年の415件から令和元年は375件に減少していることから、交通安全を目的とした啓発活動は一定の成果があった。	
<b>効率性</b>	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現在、警察等の関係機関との役割分担ができており、結果として一定の成果が出ていることから、現状見直しの可能性はない。	

改善 (Action)		
<b>今後の事業の方向性</b>	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b> 交通事故ゼロを目指す年4回の交通安全キャンペーンでは、交通安全の意識高揚を図るイベントとなるように工夫し、実施団体の負担軽減を考慮しながら、引き続き実施している。 自転車事故多発地域を中心に広報活動を実施する。イベント等の実施内容を工夫し自転車の交通ルールの周知徹底を図る。 中学生、高校生等を対象としたスクエアドストレイトを実施し、自転車を中心とした交通安全意識向上を図る。 交通安全教室が年々増加傾向にあるが、他の機関と連携しながら、実施体制を整え、可能な限り対応する。		

# 令和元年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	20	高津区防災まちづくり推進事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			670000		危機管理担当		石丸	64353	

事業の概要										
<b>事業の概要</b>		「自助」、「共助」、「公助」の観点から、またネットワークの強化の観点から、地域防災力向上を図る施策を実施し、災害に強い高津区のまちづくりを推進する。								
<b>実施期間</b>		事業開始年度 平成21年度		事業終了年度 —		<b>予算中事業</b>		安全・安心まちづくり事業費		
<b>地域の課題と現状</b>		区民生活に係るニーズ調査(H28)では、多くの区民が大規模地震に関する不安を感じている一方で、家庭での備蓄や地域の防災訓練への参加状況など、意識と行動の間には差異があり、これを埋めるための効果的な取組が必要である。また、高津区の特性として土砂災害警戒区域や想定浸水区域が多いこと、大規模地震発生時の溝口駅周辺での帰宅困難者等の対策が必要であることを踏まえた対策が必要となっている。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	6,925	6,577	6,603	4,133					
	財源内訳	国庫支出金								
		市債								
その他特財 一般財源		6,925	6,577	6,603	4,133					

計画 (Plan)	
<b>事業の目的</b>	「自助・共助・公助、それぞれによる地域防災力の向上」と「区の特性に配慮し、官民のネットワークを生かした、オール高津区での災害対策の推進」を図る。
<b>今年度の事業の取組内容</b>	属性別に防災啓発を実施し、家庭での備えなど自助の取組を促進する。 避難所運営会議の活性化に向けた支援や高津区防災ネットワーク会議を実施し、共助の取組を促進する。 風水害への対応を図るため、平瀬川下流部避難計画を作成する。

実施結果 (Do)										
<b>上記取組内容に対する達成度</b>		<b>3</b>	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
<b>取組内容の実績等</b>		小中学生や地域住民を対象に、マイ減災マップワークショップを実施した。 避難所運営に必要な図面作成や物品配備を行い避難所運営会議の活性化を進めるとともに、高津区防災ネットワーク会議を開催し、関係機関同士の連携を図った(※全体会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)。 防災防犯啓蒙イベント「あんあんフェスタ」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 平瀬川下流部避難計画の策定は、令和元年東日本台風の影響により、事業遂行が困難となったことから中止。								
<b>数値で把握することが可能な取組</b>		指標分類	指 標		H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
		1	活動指標	高津区防災ネットワーク会議の開催	目標 4 実績 4	4 3			回	
		2	活動指標	安全安心啓発イベントの実施	目標 1 実績 1	1 0			回	
		3			目標 実績					
		4			目標 実績					

評価 (Check)			
<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b>		東日本大震災や熊本地震などの大震災や、東日本台風等による豪雨災害を受け、自助・共助・公助の強化に向けた取組をさらに推進する必要がある。	
<b>事業の見直し・改善内容</b>		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		平成31年3月改正の川崎市災害対策本部規程により、区災害対策本部の体制(班構成及び担当課)が各区統一の体制に見直されたため、高津区地域防災計画の改訂を行った。	
評価項目		評価	
<b>必要性</b>	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	評価の理由	昨今の自然災害の発生状況を受け、防災全体に対するニーズは高まっていると考えられる。	
<b>有効性</b>	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	<b>a</b>
	評価の理由	自主防災組織や避難所運営会議の取組状況などから一定の成果があったと考えられる。	
<b>効率性</b>	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	評価の理由	行政・住民が防災の知識・スキルを向上させていくことにより、自主的な活動の強化が見込まれ、将来的な効率的・効果的な事業実施につながる可能性があると考えられる。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b> 社会全体として、自然災害に対する意識が向上してきた一方で、昨年度の東日本台風を踏まえ新たな課題も確認されていることから、より効果的な手法を検討しながら、啓発の実施や新たな担い手の育成等に取り組んでいく必要がある。		

# 令和元年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	25	25	土のうステーション設置事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			676200		高津区役所道路公園センター 整備課		増岡	74557	

事業の概要									
事業の概要		大雨による道路冠水や床下浸水が発生する恐れが高い地域において、道路・公園用地等公共用地に土のうステーションを設置し、区民が土のうを迅速に入手することができる体制を整備する。 3年間で15カ所(R1:3カ所、R2:6カ所、R3:6カ所)への設置を予定。							
実施期間		事業開始年度 令和元年		事業終了年度 —		予算中事業		安全・安心まちづくり事業費	
地域の課題と現状		土のうは、道路公園センターでは“取りに来ていただければ渡す”ことを原則としているため、自動車を所有していない方や高齢のために土のうの運搬ができない方にとっては、容易に入手ができない状況となっている。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費			910		897			
		財源内訳	国庫支出金						
		市債							
		その他特材							
		一般財源		910	897	1,623			

計画 (Plan)	
事業の目的	大雨による道路冠水や床下浸水が発生する恐れが高い地域において、区民が土のうを迅速に入手することができる体制を整備する。
今年度の事業の取組内容	高津区管内における過去の浸水箇所や土のうを取りに来た方の所在などを踏まえ、土のうステーションを3箇所に設置する。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		2		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		年度初めに計画通り市道久地20号線歩道部、野川柿生線歩道部、東高津公園内の3箇所に土のうステーションを設置し、1箇所当たり、約340袋の土のうの持ち出しを確認できた。台風19号の影響を受け、年度末に被害の大きかった市道久地3号線沿いに1箇所追加で設置するなど、地域住民の要望に応えた。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 成果指標	土のう利用数(1箇所当たり)	目標		50				袋
			実績		340				
	2		目標						
			実績						
3		目標							
		実績							
4		目標							
		実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		近年の台風やゲリラ豪雨による大雨により、道路冠水や床下浸水が発生する恐れが高まっており、土のうの需要が増加している。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 令和 1 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施( 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		既設の土のうステーションは、高津区内で偏在しており、未整備地区から土のうの需要があるため、高津区内全域に、均等に配置することとし、住民が土のうを迅速に入手し、応急対応にあたることのできる体制を整備する。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	既設の土のうステーションは、高津区内で偏在しており、未設置地区から土のうの需要があるため、高津区内全域に、均等に配置する必要がある。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	1箇所の土のうステーションから、約340袋の土のうの持ち出しを確認できた。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	常に土のうの在庫を無くさない維持管理方法を考案する必要があるが、予算・人的措置等が必要であり、抜本的対策の構築・実行は困難なことから、現行体制を継続する。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
これまでの設置効果を検証し、反省点等を踏まえた改善・工夫を図りながら、区内全域への拡大を進め、引き続き、住民が土のうを迅速に入手し、応急対応にあたることのできる体制を整備していく。		